

テーマ：北方領土（実践校）

## 留萌管内 天塩町立天塩中学校

### 本実践のポイント（概要）

- ・ふるさとに対する愛着や誇りを育むため、主に社会科の学習と関連させて、北方領土の歴史や自然等について、留萌地域とのつながりを見出しながら興味・関心を高め、北方領土の語り部を外部講師として招聘した講話を通して、北方領土と自分たちの生活との関わりについて探究的に学習しました。

### ふるさと教育・観光教育の実践内容

#### 単元の目標

北方領土について、社会科の学習と関連付けた基本的な知識の想起と発展的な学習を通して、北方領土の特色や自分たちの生活との関わりについて理解するとともに、ふるさとの未来について具体的に考え、地域のよさを大切にしながら生活していくことができるようにする。

#### 取組の様子

##### (1) 課題の設定

「北海道ふるさと教育指導プログラム」を活用するとともに、社会科で学習した北方領土の位置関係及び歴史的背景を基に、北方領土の語り部による講話を聞き、北方領土に対する興味・関心を喚起するとともに、領土問題について自分の考えをもつための課題を設定しました。

##### (2) 情報の収集

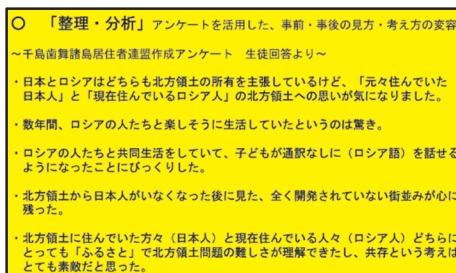
北方領土について、地理・歴史の2分野の既習内容を想起させながら、第3学年の社会科に発展的な内容を取り入れる形で、北方領土と留萌管内の歴史的な背景の接点を留萌沖三船遭難事件の学習や情報収集から興味・関心を高め、語り部による講話を通して学習の深化を図りました。



【三船遭難慰霊之碑】

##### (3) 整理・分析

1人1台端末を活用し、収集した情報や講話から得た北方領土での生活や占領時などの体験談から、北方領土について新たな視点で自己の考えを整理し、北方領土の特色や自分たちの生活との関わりについて理解を深めました。



【アンケート結果】

##### (4) まとめ・表現

遠く離れた留萌の歴史と北方領土の歴史との接点を学び、感想を掲示・交流することで、北方領土の問題を元島民の苦難や願いに留まらず、現在の住民の思いにも寄り添った視点で、郷土の未来について考えることができました。

#### 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る指導の工夫

- ・生徒の実態から、自身と北方領土との距離感を縮めることに重点を置き、情報収集の場面で1人1台端末を活用した北方領土の歴史等に関する調べ学習を行いました。
- ・北方領土の語り部による講話の後に、1人1台端末を活用し、自己の考えの変化を振り返り、交流する場面を位置付けました。

### 実践の振り返り

- ・学習後の生徒アンケートにおいて、「北方領土について調べたいと思う」と回答した生徒の割合が10ポイント増加し、8割の生徒が考えが変わったと回答するなど、地域や北方領土に対する興味・関心が高まるとともに、ふるさとに対する愛着や誇りを育むことができました。
- ・「ふるさと」の概念を生活地域（天塩町）から北海道、日本へと広げてグローバルな視点を養う学習指導の工夫により、ふるさとへの愛着や誇りをより一層育むことが期待できます。